スポーツボランティアの進む方向

広島市スポーツイベントボランティア

研修会

2019年2月11日　市民スポーツボランティア　SV2004　泉田　和雄

はじめに

簡単な自己紹介

1. お客様との接し方について
2. リーダー、サブリーダーとボランティア【休憩】
3. 若い世代を増やすために
4. まとめ　私たちの進む方向
　～　スポーツボランティアのやりがいについて

簡単な自己紹介

1998年
ベガルタ仙台
ボランティア

2001年
宮城国体
ボランティア

2002年
ワールドカップ
ボランティア

2003年
グランディ・21
ボランティア

市民ｽﾎﾟｰﾂ
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ
SV2004

2004
9・12

2005年
楽天イーグルス
ボランティア

2005年
仙台８９ＥＲＳ
ボランティア

2012年
仙台ベルフィーユ
ボランティア

2017年
ヴォスクオーレ仙台
ボランティア

山形県出身　ボランティア歴２０年

サッカーベガルタ仙台やワールドカップ宮城大会を契機として、幅広いスポーツのサポートのため、市民有志で市民スポーツボランティアＳＶ２００４を立ち上げ代表理事

1. お客様との接し方について

スポーツイベント

アルバイトとの違い

私たちは、「経験」や「想い」を大切に、観客をもてなします

スタッフとの違い

私たちは、お客様に指示したり命令することはありません

1. お客様との接し方について

ボランティアだから
できることがあります

大分から始まったおもてなしの取組、今、全国に広がっています

私たちに出来る事はたくさんあります

1. お客様との接し方について

「楽しく」する。「快適」にする。「感謝」を伝える。

観客選手に一番近いからこそ、気づき、出来る事があります

2. リーダー、サブリーダーとボランティア

スポーツボランティアの活動は

「チーム」 ＝ひとつの目標や目的のため共に協力して活動する

信頼をもとに、目標を定め優先順位をつけチームでの活動をまとめる

「リーダー」 ＝リーダーと連携して活動をサポートするサブリーダー

目標を示し、達成するため、方法や手順を示し、一緒に活動します

2. リーダー、サブリーダーとボランティア

1） いつでもどこでも声をかける
2） 声がけは質問から
3） 笑顔で終わる

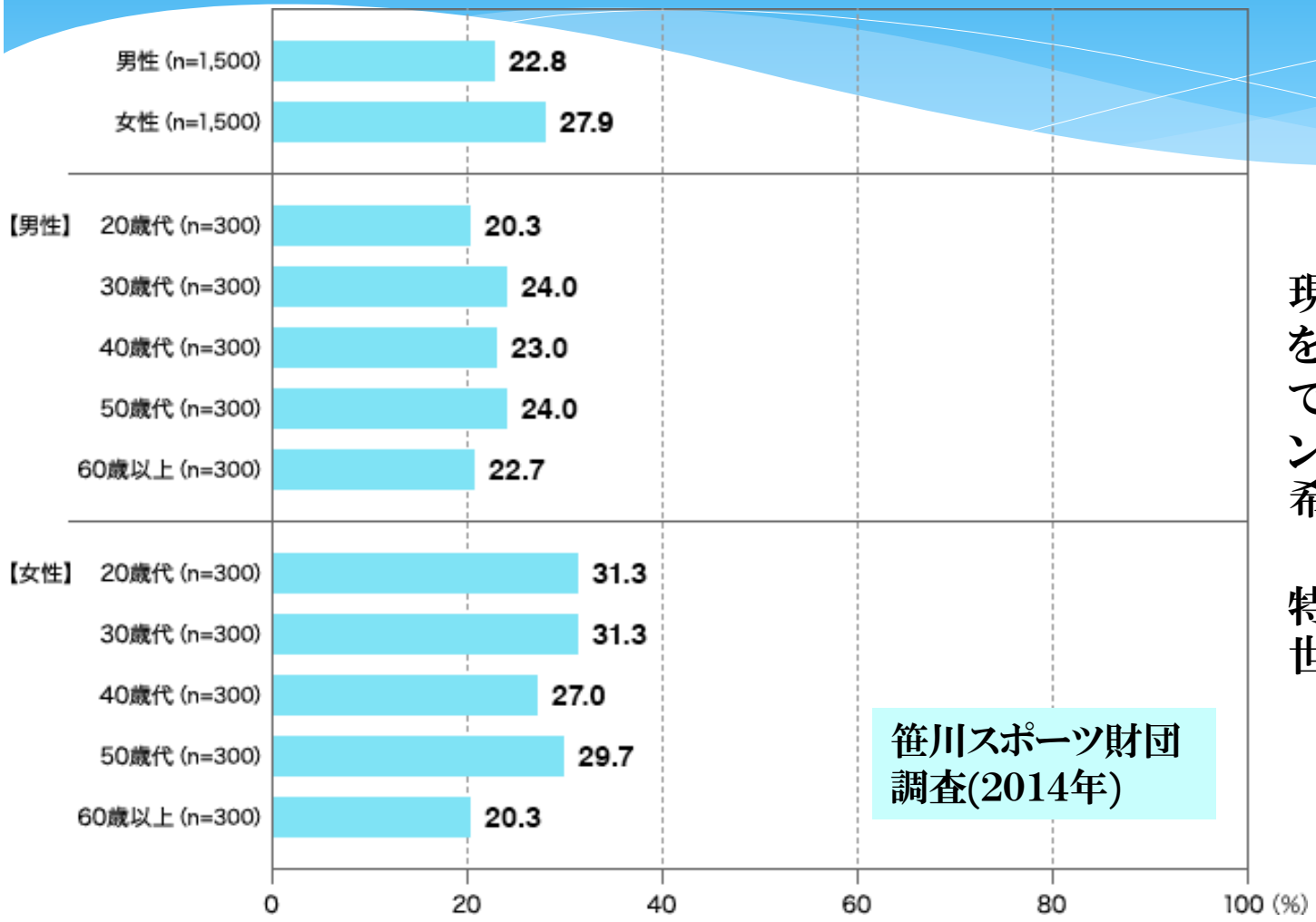
NHK プロフェショナル　森保　一　(現日本代表監督)

1） 「やってだめ」より「やってほしいこと」を伝える
2） 「ないものねだり」より「あるものさがし」
3） 互に、感謝し合う

泉田　和雄　（市民スポーツボランティア　SV2004）

休　憩

3. 若い人の参加を増やす方法



笹川スポーツ財団調査(2014年)

現在ボランティアをしていない人々でも、スポーツボランティアへの参加希望は高い

特に女性では若い世代の希望が多い

3. 若い人の参加を増やす方法

参加できない理由

笹川スポーツ財団
調査(2014年)

1. 活動の情報が少ない、募集の窓口がわかりにくい
2. 活動のための時間がとれない
3. 専門知識、ルールの理解、経験が必要
4. 仕事・学業との両立・調整が難しい
5. 肉体的負担が大きい

ミニ体験などを通じて、出来ない理由を取り除く取組が大切

3. 若い人の参加を増やす方法

1） 情報発信

情報を届ける相手に合わせた「情報発信」

年　　代	情報手段
中高生	学校を通じてチラシ（ＱＲコードの活用）
	ＳＮＳ（インスタグラム／ライン／ツイッター）
大学生	ＳＮＳ（フェースブック／インスタグラム／ライン／ツイッター）
	大学ボランティアセンター
社会人	ＳＮＳ（フェースブック／インスタグラム／ライン／ツイッター）
	企業との連携／メール／イベント／ホームページ
シニア	ホームページ／チラシ／メール
	電話／ＦＡＸ／イベント

3. 若い人の参加を増やす方法

2） 活動参加

参加のしやすさと継続したいという環境作り

体験の仕組み

継続の仕組み

ベテランが閉鎖的な雰囲気を作らず、任せ育てる事が大切

4. まとめ～私たちの進む方向

スポーツボランティアのやりがい

参加動機　＝　「やりがい」「楽しさ」

チームやスポーツが好き

地域や社会のために役だつ

仲間と一緒に活動できる

仙台国際ハーフマラソンボランティア・アンケート

社会課題

孤立感・存在意義の喪失

例えば
名前を覚えてもらう
ありがとう、といわれる
一緒に喜ぶ

互いを認め合うこと
感謝しあえる事

あなたがいたから

東京マラソンボランティアメッセージ

4. まとめ～私たちの進む方向

東日本大震災

２０１１年　～　スポーツで笑顔を未来へ

３つの活動目標　**キーワードは「子ども・笑顔・身の丈の支援」**
１．未来をになう子供たちに、スポーツの楽しさを伝える活動をします。
２．スポーツを通じて震災復興のための支援活動を行います。
３．地域に根ざすスポーツ組織を支援する活動をします。
2011年5月　緊急　東北スポーツボランティアサミット宣言

海よ、ノーサイドだ
私たちは未来だ

4. まとめ～私たちの進む方向

過　去

する
プロスポーツ・学校など

みる
プロスポーツ・娯楽

そして、地域にスポーツを「ささえる」文化が生まれ成長してきた

今

する

ささえる

みる

4. まとめ～私たちの進む方向

これから

する

みる

ささえあう

「する」「みる」スポーツの継続のため、地域で「ささえる」ことが重要

しかし、一方的に「ささえる」だけでは、ボランティアは消耗し続かない

ボランティアの認知を高める／もっと楽しく感謝し合える関係を創る

ひろげる

4. まとめ～私たちの進む方向

広島にはたくさんのスポーツがあります

日本一笑顔の多いまち／うらやましい

様々な可能性（進む道）

スポーツで人・地域を笑顔に、元気にする

スポーツが好きな人・組織のいい関係を作る

全国の仲間と、一緒に進む　（いいことは共有していく）

やりがい、楽しさを自分たちで「創る」

むすび

伝えたいこと
「楽しさ」は創ること／「ささえあう」こと

仙台の進む方向

- ボランティア組織同士の連携を深める
- 次の世代を育て、つなげること
- 楽しみを「創る」活動

仙台スポーツボランティアステーション(2019年発足)

仙台みやぎ2020
(2018年発足)

ご清聴ありがとうございます。これからも良き仲間として一緒に前に進みたいと思います。
何かあれば　泉田　izumita@dm.mbn.or.jp　までご連絡ください。